

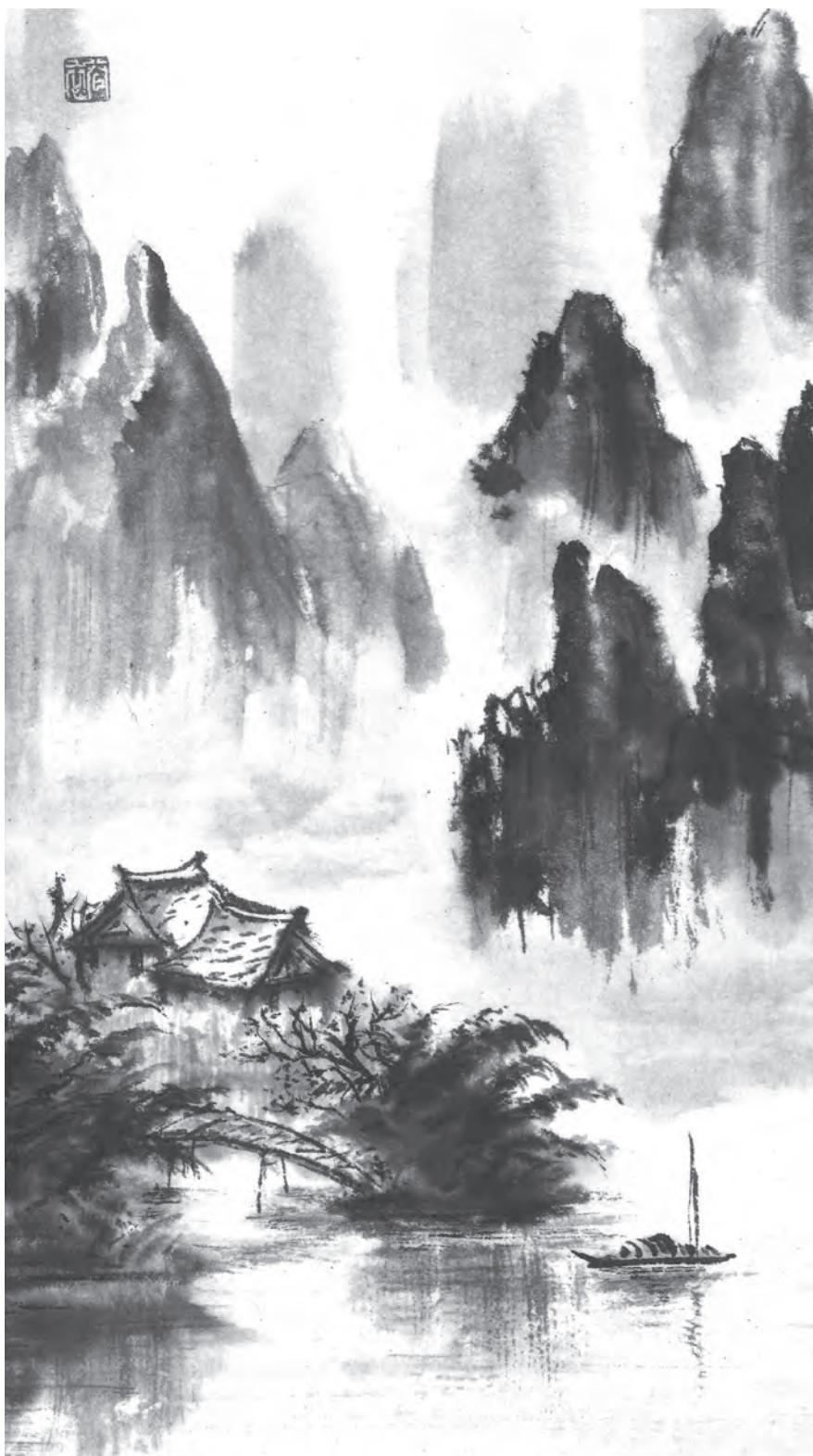
悠久の名詩選Ⅲ

中国の名作シリーズ



悠久の名詩選Ⅲ

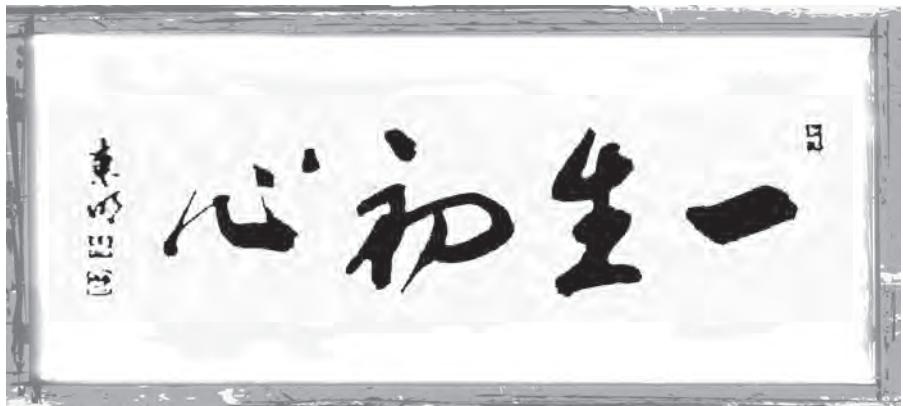
中国の名作シリーズ



水墨画 1：桂林



水墨画 2：桥



二代会長 宮崎東明先生会訓

卷頭言

之を知るものは之を好むものにしかず、之を
好むものは之を楽しむものにしかずとは、孔聖
の道を語りし所なり。吟詩も亦然り。ただ其の
詩を知り、其の詩を吟ずるのみなるは未だし、
之を好むにいたりてよし。ただ之を好むも未だ
可ならず、其の意を悟り其の義を楽しむにいた
りて完きなり。楽しめば則ち生ず。詩中の景、
詩中の情、油然として其の心に生じ来りて、
己れ遂に詩中の人となる、これを同化という。
吟詩の妙味ここにあり、修養の道も亦ここに
あり。われ諸君とここに従事せん。

初代会長 藤澤黃坡先生遺訓

発刊にあたつて

公益社団法人 関西吟詩文化協会 総本部

会長 古田哲壯

います。そうした漢詩の原点は中国詩にあり、その中国詩は憂愁・悲憤・慷慨・望郷・友情・山紫水明等、作者の心の叫びが感じ取られる味わい深いものが多くあり、こうして名詩をより深く鑑賞するための詳解書を希望される声が多々ありました。

令和五年度本会は、創立九十周年並びに公益社団法人設立十二周年記念全国吟道大会を十月以降全国四地区で盛会裏に実施することができました。これも役員の先生方会員の皆さまの絶大なご支援とご協力によるもので、ありがとうございました。

さらに、この九十年という節目にあたり、役員の諸先生の賛同を得て、このたび「悠久の名詩選Ⅲ」（中国の名作シリーズ）を発刊させていただくことになりました。

私たちは、著名な作者の残してくれた名詩や和歌・俳句・新体詩などを伝統的な旋律にのせて、詠つて楽しみ、知らず知らずのうちに作者の心情に触れて文学や歴史を学んで

本書では、機関誌「吟詩日本」に「悠久の名詩」として、漢詩・鑑賞・作者をより詳しく掲載してまいりました。平成二十一年度「創立八十周年記念事業」として三十五題の中国詩をまとめた「悠久の名詩選Ⅰ」、さらに、五年後の平成三十一年度「創立八十五周年記念事業」として、中国詩二十二題を掲載した「悠久の名詩選Ⅱ」を発刊してまいりました。

そして、このたびその後の五年間の「吟詩日本」掲載の二十題を新たに体裁を整え、シリーズ第三弾としてお届けするものであります。

本書を通じて、皆様方の吟詠活動がより深く広がるものになれば幸いです。

目次

4『望天門山』李白	スケールの雄大さを巧みに表現した典型的な李白の詩	19
5『登岳陽樓』杜甫	洞庭湖の湖面を吹く風は冷たかった	22
6『萬歳樓』王昌齡	中国三大楼閣の詩	25
7『新秋寄樂天』劉禹錫		28
8『臨洞庭』孟浩然	白居易との友情	33
9『題烏江亭』杜牧	洞庭湖の大觀と仕官の志	36
10『西塞山懷古』劉禹錫	烏江を訪れ・杜牧の思い	40
1『鳳凰台』李白	やはり未練の残る宮廷生活であった	10
2『春望』杜甫	「春望」と「奥の細道」(芭蕉)	13
3『秋思』張籍	故郷を思う心を歌う	16
卷頭言・発刊にあたつて		4
中国地図		8

11	『対月憶元九』 白居易	43	17	『胡隱君を尋ぬ』 高啓	67
	終生の親友元九			詩人を襲つた悲劇	
12	『登柳州城樓』 柳宗元	47	18	『草』 白居易	71
	貶謫の悲しみを乗り越え柳州の神となる			詩才に恵まれた神童、進士に及第するも宰相にはなれず	
13	『胡笳の歌、送顏真卿使赴河隴』	50	19	『贈隣女』 魚玄機	76
	胡笳の歌、顏真卿の使いして河隴に赴くを送る			無価の宝を求むるは易きも有心の郎を得るは難し	
14	『登鸕鷀樓』 王之渙	55		—唐末・女流詩人の愛憎—	
	詩は知られ人は知られず				
15	『花月吟』 唐伯虎	59	20	『対酒』 白居易	80
	花と月と吟を楽しむ			人生を楽しむ達人	
16	『秋日偶成』 程明道	64		年表	84
	いかなる時も「道」を楽しむ人であります				
	参考資料				
	編集を終えて				
91	90				